

自己評価の結果について

平成25年度

(公表シート 様式 4)

学校法人旭川カトリック学園 留萌聖園幼稚園

1. 本園の教育目標

キリスト教の精神と理念に基づいて、他者に対する思いやりと自己犠牲の精神を育む。幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保し、遊びを通して周りの世界に興味をもち、探索し、思考する過程を大切に教育を目指している。また、幼児期にふさわしい生活が展開されるように、園児と教師の間の信頼関係に支えられた生活、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活、友達と十分にかかわって展開する生活がなされるように配慮した幼児教育を目指している。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

引き続き幼稚園の教育課程の内容を確認し、教職員間の共通理解を図り、教育の質を高める。園と家庭との連携をより一層深め、園と家庭とがひとりひとりの子どもの様子を、常に同じ理解・把握出来ている様に努める。行事や日々の保育も、新しい発想で子ども達を惹きつけて行ける様、いろいろな形で新たな取り組みをして行く様に努力する。

3. 評価項目の達成及び取組み状況

評価項目・目標	取組み状況
1 保育の計画性 保育内容及び指導の在り方等を精査し、指導計画を策定し、教育内容の充実を図る。	昨年度の反省から、保育の資質向上と、行事や保育の早めの計画・準備で、余裕を持って進めていく事を重点においた。また、留萌小改築に絡む運動会開催場所の問題や、新たな企画（お泊まり保育・お買い物ごっこ等）にも職員間でよく話し合っており取り組んで来た。全体的に職員間の話し合いや、担任と補助教員の相互理解の機会を増やし、連携がよく取れたと思われる。しかし、自然に恵まれた環境にありながら、行事や日々の保育に追われ、自然の中で保育する時間があまり取れていない事が反省としてあげられた。次年度は自然とのふれ合いに力を入れていきたい。
2 保育の在り方、幼児への対応 安全管理の徹底、幼児理解の向上、子育て支援その他の充実を図る。	昨年度に引き続き、ていねいな保育を目標に努めた。言葉掛けや対応など、子どもの心に寄り添ったものになるように、一人一人の特性を理解し、保育の計画を立てて取り組んだ。しかしながら、園での子どもの様子を保護者に上手く伝えられない等の、保育者の問題も反省としてあげられた。また、危機管理・安全管理では、マンネリ化していた避難誘導訓練を設定を変えて行ったり、防災ずきんをかぶってから避難するための練習も頻繁に行った。留萌の土地柄もあり、地震・津波のための避難訓練だけではなく、冬場の危機管理の徹底や、保育時間中で一番ケガが発生しやすい降園前の自由遊び時の安全管理も徹底して行きたい。
3 保育者としての資質 保育専門家としての能力、姿勢、責任等資質向上を図る。	昨年の反省を踏まえ、目的を持って必要な研修会に参加する、苦手な分野にはより積極的に取り組むなど、保育者としての資質の向上に努めた。不足していた職員間の情報交換は、そのための時間を多く取る等の取り組みで、良い結果が得られていると思われる。また職員会議等での発言の偏りも今年度は少し解消され、広く職員の意見や考えを聞ける様になって来た。ただ、まだ自分の考えや意見を、他の職員や保護者に伝えるのを苦手とする保育者もいるので、経験を積むことで克服して行きたい。

<p>4 保護者への対応及び家庭との連携 園児に関わる情報の発信と受信、保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応を図る。</p>	<p>かねてから普通の保育の様子を保護者に伝えたり、見てもらう機会が少ないのでは…という反省があげられていたことから、今年度は家庭訪問・個別面談・参観日以外にも、保護者の希望があれば随時対応し、良い成果があげられている。また、園側からも様子を見に来ていただきたいお子さんの保護者に対し、今までより少し積極的に働きかける事で、子どもの様子をより理解してもらえる機会になったと思っている。しかし、文章でのお知らせ等、説明不足で混乱や誤解が生じたり、保護者に迷惑をかける場面もあったため、今後は気を付けて対応して行きたい。保護者間のネットワークも一部理解を越えるものもあり、正しい情報が伝わっていない場合も多いので、「憶測」で情報が交錯する前に、正しい情報提供を迅速に行える様に努力したい。</p>
<p>5 地域社会との連携 地域の自然や社会との関わり及び小学校との連携を図り、地域開放の努力をする。</p>	<p>留萌市や留萌管内のイベント等への参加は、保育時間中に参加出来るものには出来る範囲で参加したり、施設訪問や職場訪問は、事前に内容や仕組みを話してから実施する事でより理解も増していると思う。今後は、少子高齢化の時代にあって、もっと身近な形でのお年寄りとの交流や、社会活動への参加など工夫して行きたい。子育て支援は園としては保育日の預かり保育や、長期休暇期間の預かり保育等で対応出来ていると思われる。</p>
<p>6 研修と研究 研修・研究を積極的に行い、専門性を高める努力をする。</p>	<p>昨年度は子どものアレルギーや疾病に対する保育者としての知識・認識の浅さがあげられていたため、今年度は少しでも対応出来る様に努めた。ただ、なかなか十分な対応は難しいのが現状である。今年度は年間の保育研究のテーマを「わらべうた遊び」に決め、クラスの保育やわくわく保育の中で取り入れる事で、保育者の学びにも繋がっている。時代の流行ものに振り回されるのではなく、幼稚園だからこそじっくりと腰を据えて取り組めるようなテーマを、今後も計画して取り組んで行きたい。</p>
<p>7 情報公開 保育の現状等や自己点検・評価の結果等を個人情報保護に留意しつつ、積極的に園便り等で情報公開する努力をする。</p>	<p>園だより・クラスだより、また必要に応じて出されるお知らせで家庭との連絡をはかり、情報公開する様に取り組んでいる。また、昨年度の学校評価の結果は、学園ホームページで閲覧出来る様になっている。ホームページの更新等、なかなか思うような準備が出来ずにいるが、時代のニーズに対応出来る様準備を進めて行きたい。</p>

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>職員間の共通理解・連携が前年度に比べると良くなってきていると感じる。保護者対応も保護者からの相談を待つだけでなく、必要に応じてこちらから積極的に話しをする機会を作るなど、家庭ではなかなか見えない『集団生活の中の様子』を伝えていく事によって、園と家庭との共通理解・連携に繋がったと思われる。まだまだ、保護者対応には難しい面もあり、苦手意識を持つ保育者もいるが、経験の長い保育者と一緒に話し合いの場を持つ等して、経験を積んで行きたい。また、行事等のマンネリ化も反省に上がっていたことから、新たな取り組みや企画も増やし、良い成果を上げられたと思っている。</p>

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組み方法
安全管理	留萌市の地域柄もあり、地震や津波といった災害に対する意識は低いが、それ以外の災害に備えて、避難誘導訓練は設定をその都度変えながら、継続して行っていく。また、遠くまで走って逃げる訓練等はまだ実施したことがないため、今後取り入れて行く。園内外の遊具の点検、遊具の誤った使い方による事故やケガの防止にも努めていく。

<p>特別支援教育</p>	<p>支援を必要とする子ども達が年々増加の傾向にある事から、引き続き特別支援教育の在り方、取り組みに力を入れて行く。支援を必要とする幼児への関わりのみならず、クラス全体・園全体への指導方法を、実践を通して学んで行くと共に、幼児の発達に関わる諸機関との連携の強化、小学校へのスムーズな引き継ぎの面で、保護者の理解を得るための話し合いの場を積極的に持つ。子ども達が安心して教育を受けられるための支援と、幼稚園としての役割を果たして行ける様に努める。</p>
<p>園に対する保護者の満足度の把握</p>	<p>引き続き本学園の建学の精神に則った独自性に充分配慮しつつ、子育て中の保護者が期待する幼稚園像を把握し、カトリック幼稚園に求められている事を確認する事で、本園の方向性を再認識して行く。また、子育て支援等、現代社会が抱える問題にも向き合い、情報に惑わされる事なく、本当に必要な支援(親にとっても子にとっても)とは何かをよく考え対応を検討して行く。また、インターネット等の過度な情報に園も保護者も振り回される事のないよう、正しい情報提供と、保護者の不安や不信感を払拭出来る様、相談の場も作って行きたい。</p>

6. 学校関係者の評価

<p>1. 『保育の計画性』に関しては、「満足」から「やや満足」の回答であった。①一年間、多くの行事があるが、前年度の反省を活かした取り組みが見られる。②新しい企画や保育内容も積極的に取り入れ、マンネリ化しない様な努力も見られた、等あげられた。反面、③親子参加型の行事が少ない。子どもの様子をもっと知るためにも、その様な機会を増やして欲しい。④いろいろな保護者からの意見やクレームが原因なのか、保護者の行事の手伝いの要請が年々減って来ている。その分職員の負担も大きくなると思うので、園としての確固たるスタイルを保持しつつ、保護者の協力出来る部分は排除せずに、関わって行ける様にして欲しい等の点があげられていた。昨年に引き続き、⑤自然に触れる機会をもっと増やして欲しい、⑥冬期間は感染症等も流行るので、特に子ども達が楽しみにしている行事は時期をずらして欲しい、等の要望もあった。</p> <p>2. 『保育の在り方及び対応』に関しては概ね「満足」の回答であった。①日々の保育や子どもへの関わり方には丁寧な対応が感じられ、安心して子どもを任せられる。②小さな事でも相談しやすい雰囲気がある。③家庭ではなかなか出来ない避難訓練など、状況を変え、多面的に危険の範囲を想定した取り組みが行われている。④きめ細かい特別支援の体制が取られている、等があげられた。一方、⑤保護者への連絡事項や園としての方針の伝え方が弱い・徹底されない点への指摘もあった。⑥園の様子を上手に保護者に伝える努力を期待する、という保護者以外の関係者からの意見もあった。</p> <p>3. 『保育者としての資質』に関しては概ね「満足」の回答であった。①行事等で子どもに関わる姿、保育技術(ピアノ等)、会の司会進行など努力を感じる。②面談等で子どもの様子を分かりやすく伝えてもらえた、等評価された。一方、③限られた時間の中で参加している研修会でどの様な事を学んでいるのか知る機会がない。④今後も専門家としての知識や技術の向上のために積極的に研鑽を積んで行って欲しい、との要望もあげられた。</p> <p>4. 『保護者への対応』に関しては「満足」から「やや満足」の回答となった。①苦情と要望の線引きが難しい状況の中で、出来る限りの対応をしていると思う。②保育の様子、個々の子どもの様子をきめ細かく保護者に伝える努力をしている、等の評価があげられた。一方、③保護者の意見を尊重し過ぎる事で企画が変わってしまうと、そう思っていない保護者から新たな不満や苦情が生まれる。全体への影響や迷惑も考慮の上で、園としての方針をはっきりと提示し、時には仕方ないと諦めてもらう様な対応でも良いと思う。④近年、保護者間のネットワークの情報で混乱する事が多くなって来ている。園からの連絡等は迅速に伝わるように努めて欲しい、等の意見が多くあげられていた。</p> <p>5. 『地域社会との連携』に関しては、「満足」から「やや満足」の回答となった。特に高齢者施設への訪問交流は、①核家族化が進む中、お年寄りとの交流の機会は子ども達にとって大変貴重な経験となっている。今後も機会を増やして継続して欲しい、との意見が多かった。それ以外の地域交流に関しては、②留萌で行われるイベント等にもっと積極的に参加しても良いのでは?③聖園幼稚園独自のパフォーマンス(踊り等)を持つ事で、いろいろな場所で披露出来、聖園幼稚園のPRにもなるのでは?等の意見もあった。次代を担う子ども達への地域の期待も大きいことから、もっといろいろな取り組み方で、関わりの場を広げて行ける様にとの要望があげられた。</p> <p>6. 『情報公開』に関しては「満足」から「やや満足」の回答となった。①園のたよりやクラスだより、お知らせ等は分かりやすく出来ている。また子ども達の様子を知る事が出来、楽しみに読んでいる。②ホームページで行事の時以外の園の様子を知る事が出来た、等あげられた。改善すべき点として、③園のたよりにはいろいろな事が詰め込まれ過ぎていて分かりにくい。読みやすい紙面の工夫が必要。④お知らせ内容や締切などを守らない保護者に対しては、何回もおたよりでお願いするのではなく個別にきちんと指導すべきである。⑤学園ホームページがあまり浸透していない(見られていない)、等があげられた。</p>
--

7. 『その他の意見・感想』として、①子ども達が伸び伸びと活動している様子が見て取れる。②園内の清掃が行き届いていて、きれい・清潔感がある。③子ども達の礼儀やしつけがきちんとされている（小学校へ行ってからも困らない、きちんと座ってられる）、等の点に良い評価がされていた。要望としては④年長児の給食体験の回数を増やして欲しい。⑤クラス（親子）レクリエーションの企画、等があげられた。今年度は特に、保護者の過度な要望やクレームに対する園の対応のあり方や、SNS情報網の拡大に伴う様々な弊害もあげられ、⑥保護者が迷ったり振り回されないためにも、園の毅然とした対応が強く求められている、と感じた。また、少子化傾向が進む中、⑦「聖園幼稚園は厳しい」と言う批判的な声も聞くが、後々の事を考えると必要な教育だと思える事ばかりなので、「聖園離れ」を恐れずに、今まで通りの教育方針を貫いて欲しい、という意見もあり、当園の教育の軸として今後も力を入れて行きたい。

7. 財務状況

大手監査法人である太陽ASG有限責任監査法人(東京)の監査を受け、適正に運営されていると認められている。また、法人本部の財務状況報告により法人内各幼稚園及び学園全体の財務状況は職員の間にも周知されており、共通理解に立って効率的な運営に努めている。